

### **III 調査結果**



### 3-1 現在の状況

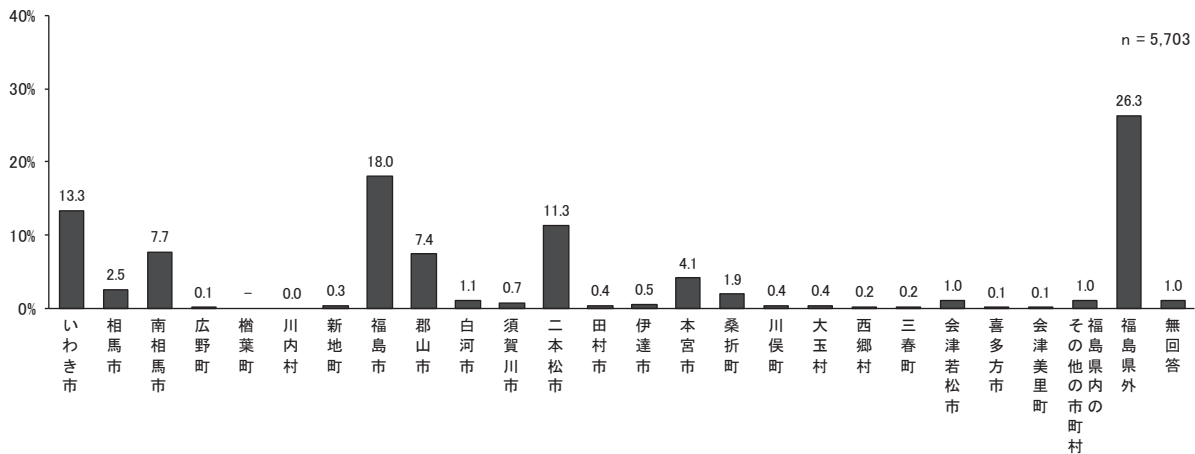
#### 3-1-1 現在の避難先自治体

問5 あなたが現在避難されている市町村を教えてください。(〇は1つ)

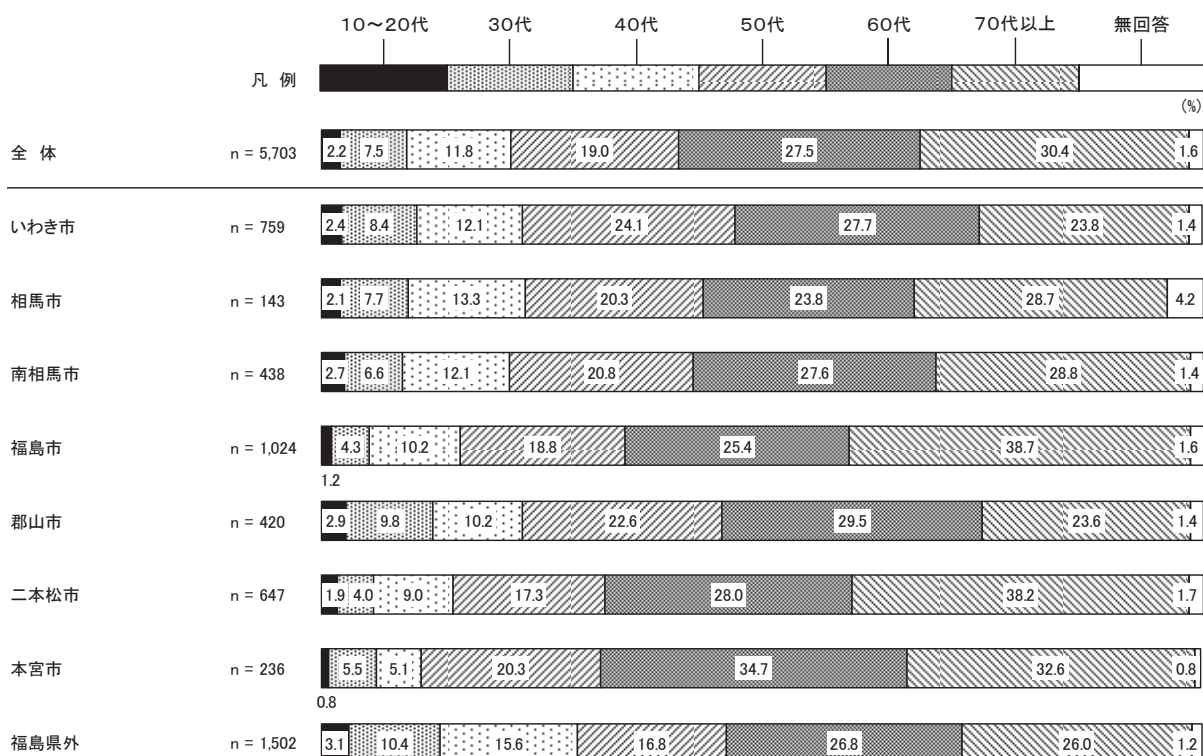
現在の避難先自治体については、「福島県外」が26.3%と最も高く、次いで「福島市」が18.0%、「いわき市」が13.3%となっている。

避難先の主な自治体について回答者の年齢別にみると、「福島市、二本松市、本宮市」は60代以上が6割を超えており、高齢層の割合が高くなっている。一方、「いわき市、郡山市、福島県外」では30代以下が1割を超えており、若年層の割合が比較的高くなっている。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



震災発生当時の住まいの行政区別にみると、南棚塩、南津島上、手七郎では「福島市」が3割以上となっている。また、畑川では「二本松市」「本宮市」が3割以上、羽附では「福島市」「二本松市」が3割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）>

	n	(% )							
		いわき市	相馬市	南相馬市	福島市	郡山市	二本松市	本宮市	福島県外
全体	5,703	13.3	2.5	7.7	18.0	7.4	11.3	4.1	26.3
1区	111	10.8	1.8	6.3	29.7	6.3	8.1	2.7	27.0
2区	61	13.1	1.6	11.5	11.5	3.3	8.2	4.9	39.3
3区	41	9.8	-	14.6	22.0	4.9	2.4	-	39.0
4区	219	14.6	2.7	9.6	15.1	6.8	11.0	3.7	26.9
5区	146	10.3	3.4	6.8	23.3	5.5	10.3	0.7	32.2
6区	69	15.9	-	11.6	24.6	-	8.7	1.4	26.1
7区	57	7.0	1.8	7.0	21.1	10.5	8.8	1.8	33.3
8区	142	16.2	2.1	5.6	21.1	4.2	8.5	0.7	33.1
佐屋前	147	12.9	5.4	2.0	18.4	7.5	7.5	1.4	35.4
川添北	289	12.8	2.4	6.6	17.6	11.8	10.7	1.4	31.1
川添南	207	12.6	0.5	9.2	16.9	7.7	9.2	4.8	30.9
上ノ原	423	15.6	2.1	8.7	12.5	7.3	14.4	2.1	27.4
樋波・牛渡	291	12.0	1.7	7.9	19.6	5.2	9.6	5.2	29.2
高瀬	162	15.4	4.9	9.9	10.5	13.0	11.1	2.5	21.6
幾世橋	201	13.4	3.5	7.5	20.9	8.0	9.5	3.5	28.4
北幾世橋北	181	11.6	6.6	10.5	16.0	10.5	8.3	7.2	22.1
北幾世橋南	77	14.3	2.6	11.7	18.2	7.8	5.2	9.1	24.7
北棚塩	69	14.5	4.3	8.7	26.1	5.8	2.9	4.3	27.5
南棚塩	88	13.6	2.3	17.0	30.7	8.0	3.4	4.5	14.8
請戸北	162	17.3	4.3	8.6	15.4	8.6	9.3	0.6	27.8
請戸南	152	20.4	1.3	5.9	20.4	5.3	11.2	2.6	25.0
中浜	46	28.3	2.2	6.5	21.7	10.9	10.9	2.2	15.2
岡竹	29	20.7	-	3.4	17.2	3.4	6.9	3.4	37.9
小丸	31	12.9	6.5	6.5	16.1	9.7	29.0	3.2	16.1
畑川	8	12.5	-	-	-	-	37.5	37.5	-

	n	(% )							
		いわき市	相馬市	南相馬市	福島市	郡山市	二本松市	本宮市	福島県外
井手	100	15.0	-	7.0	19.0	7.0	20.0	3.0	22.0
田尻	264	13.3	0.8	8.3	8.7	8.7	11.7	3.8	33.3
末ノ森	35	25.7	-	14.3	8.6	2.9	25.7	2.9	8.6
大堀	111	18.0	1.8	8.1	11.7	8.1	8.1	9.9	25.2
小野田	106	16.0	6.6	6.6	11.3	5.7	15.1	3.8	22.6
谷津田	100	25.0	4.0	4.0	21.0	4.0	6.0	4.0	21.0
酒井	63	7.9	3.2	3.2	17.5	19.0	9.5	1.6	31.7
室原	181	10.5	4.4	10.5	19.3	4.4	8.8	4.4	27.1
立野上	73	5.5	1.4	8.2	15.1	6.8	17.8	15.1	23.3
立野中	74	6.8	-	12.2	12.2	6.8	13.5	9.5	31.1
立野下	102	20.6	2.9	3.9	16.7	3.9	18.6	2.0	20.6
苅宿	97	14.4	4.1	6.2	19.6	9.3	7.2	5.2	23.7
加倉	205	14.6	2.0	4.4	15.6	8.3	14.6	2.9	24.9
酒田	163	12.9	1.2	8.0	19.0	9.2	7.4	4.9	25.2
西台	114	13.2	3.5	7.9	16.7	6.1	11.4	7.9	24.6
藤橋	84	10.7	-	14.3	14.3	4.8	10.7	3.6	31.0
羽附	36	2.8	-	2.8	36.1	2.8	36.1	11.1	2.8
津島	107	1.9	0.9	1.9	27.1	3.7	24.3	4.7	19.6
下津島	48	2.1	6.3	4.2	18.8	12.5	14.6	8.3	12.5
南津島上	49	-	-	2.0	32.7	8.2	12.2	12.2	20.4
南津島下	60	13.3	1.7	1.7	25.0	10.0	16.7	10.0	5.0
赤宇木	64	1.6	1.6	4.7	28.1	6.3	20.3	6.3	17.2
手七郎	24	-	-	12.5	33.3	-	16.7	16.7	8.3
大屋	16	-	-	6.3	18.8	-	12.5	12.5	18.8
分からない	6	-	-	-	-	16.7	16.7	-	66.7

### 3-1-2 世帯構成・人数

#### (1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

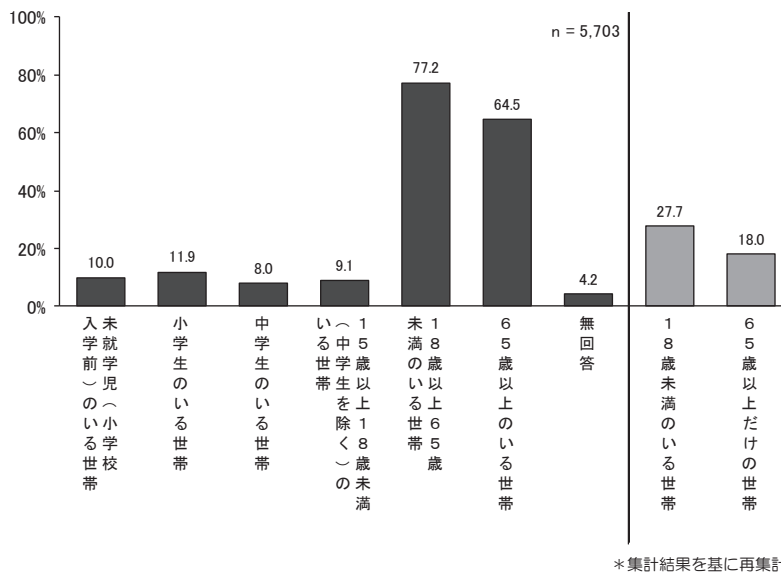
(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学年にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

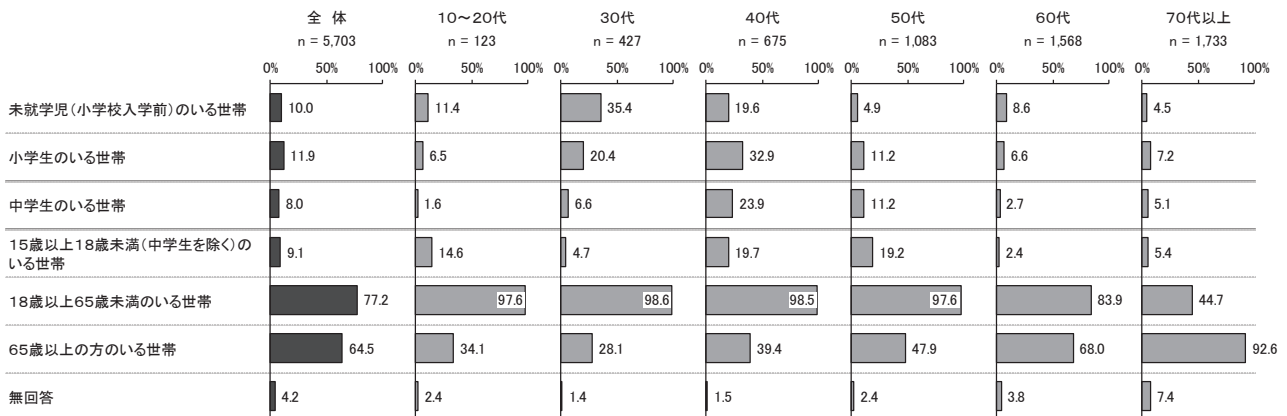
#### ① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が77.2%、「65歳以上のいる世帯」が64.5%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

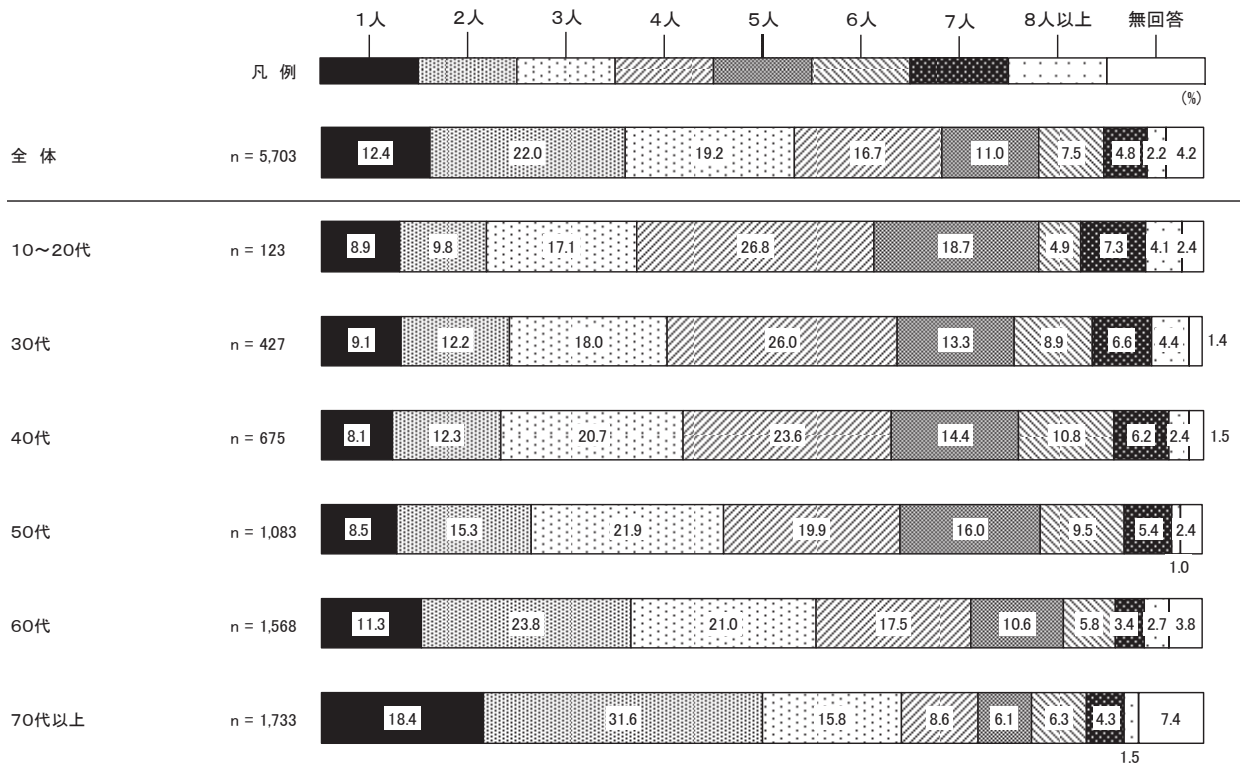


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「2人」が22.0%と最も高く、次いで「3人」(19.2%)、「4人」(16.7%)となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上で31.6%と最も高くなっている。「3人」は50代で21.9%、「4人」は10~20代で26.8%と最も高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数(年齢別)>



(2) 現在の世帯構成・人数

問6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

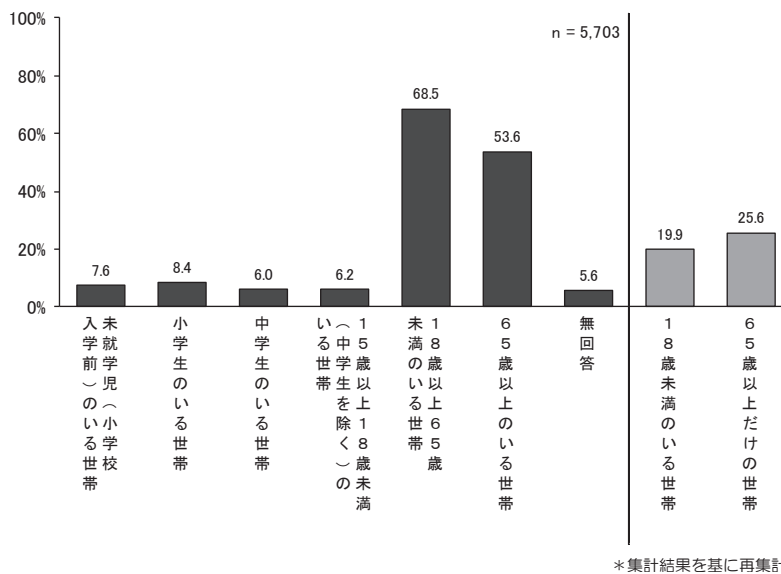
(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

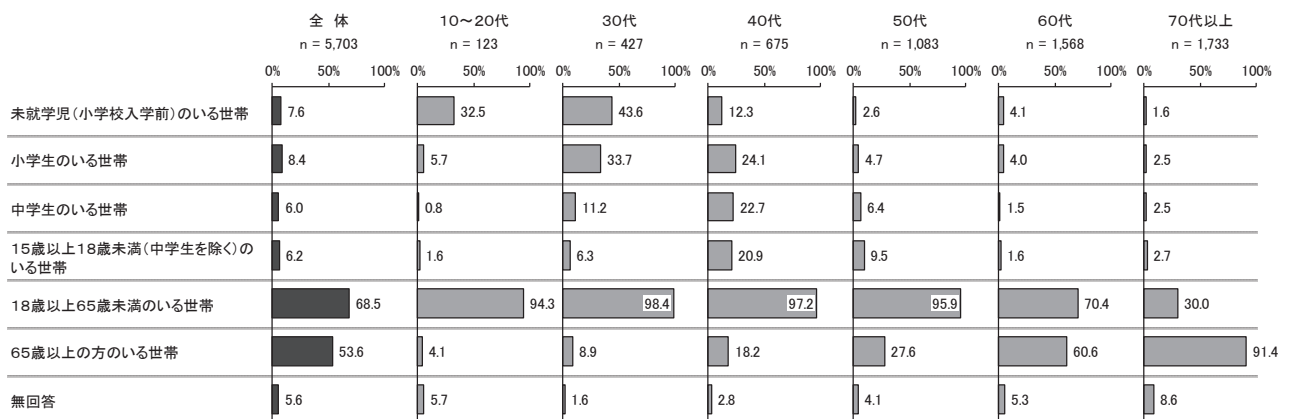
① 現在の世帯構成

現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が68.5%、「65歳以上のいる世帯」が53.6%となっている。一方、「未就学児のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「15歳以上18歳未満のいる世帯」はいずれも1割未満となっている。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

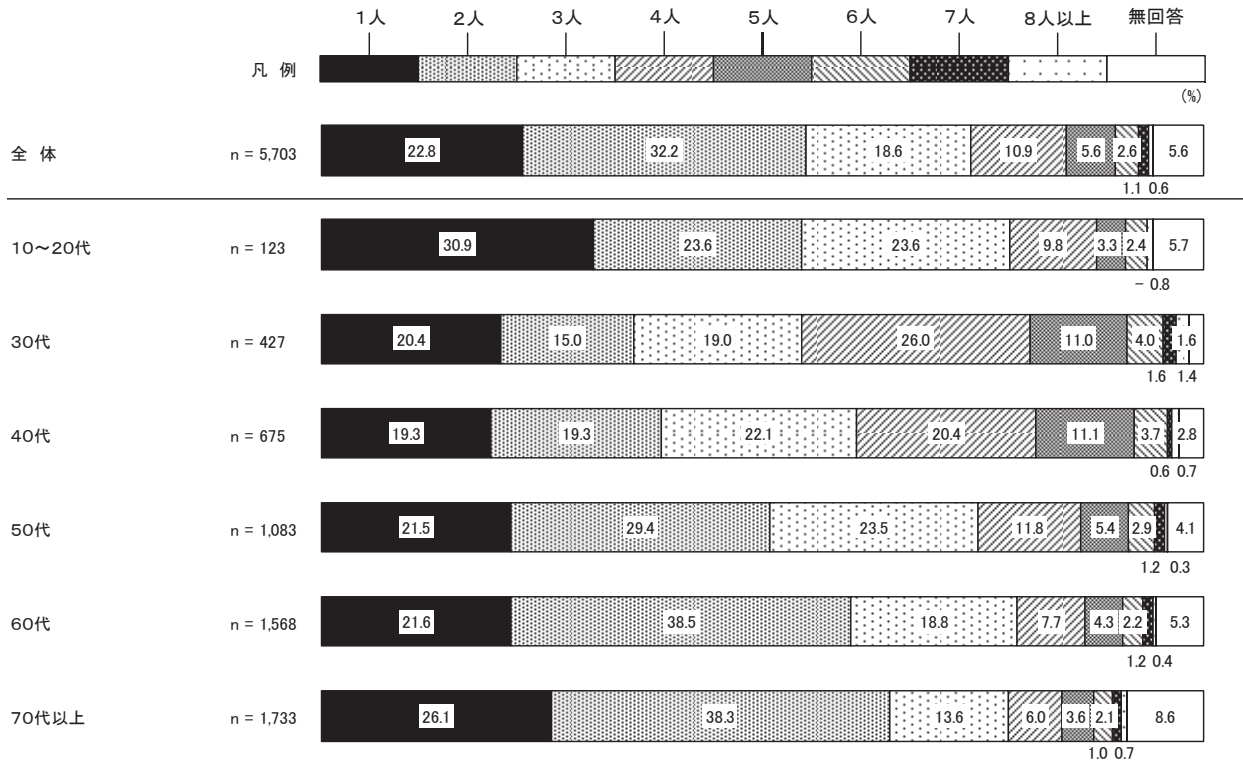


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が32.2%と最も高く、次いで「1人」が22.8%、「3人」が18.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「1人」は10~20代(30.9%)、「2人」は60代(38.5%)、70代以上(38.3%)、「4人」は30代(26.0%)、40代(20.4%)が他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(年齢別)>





### 3-1-3 職業

#### (1) 現在の職業（就業形態）

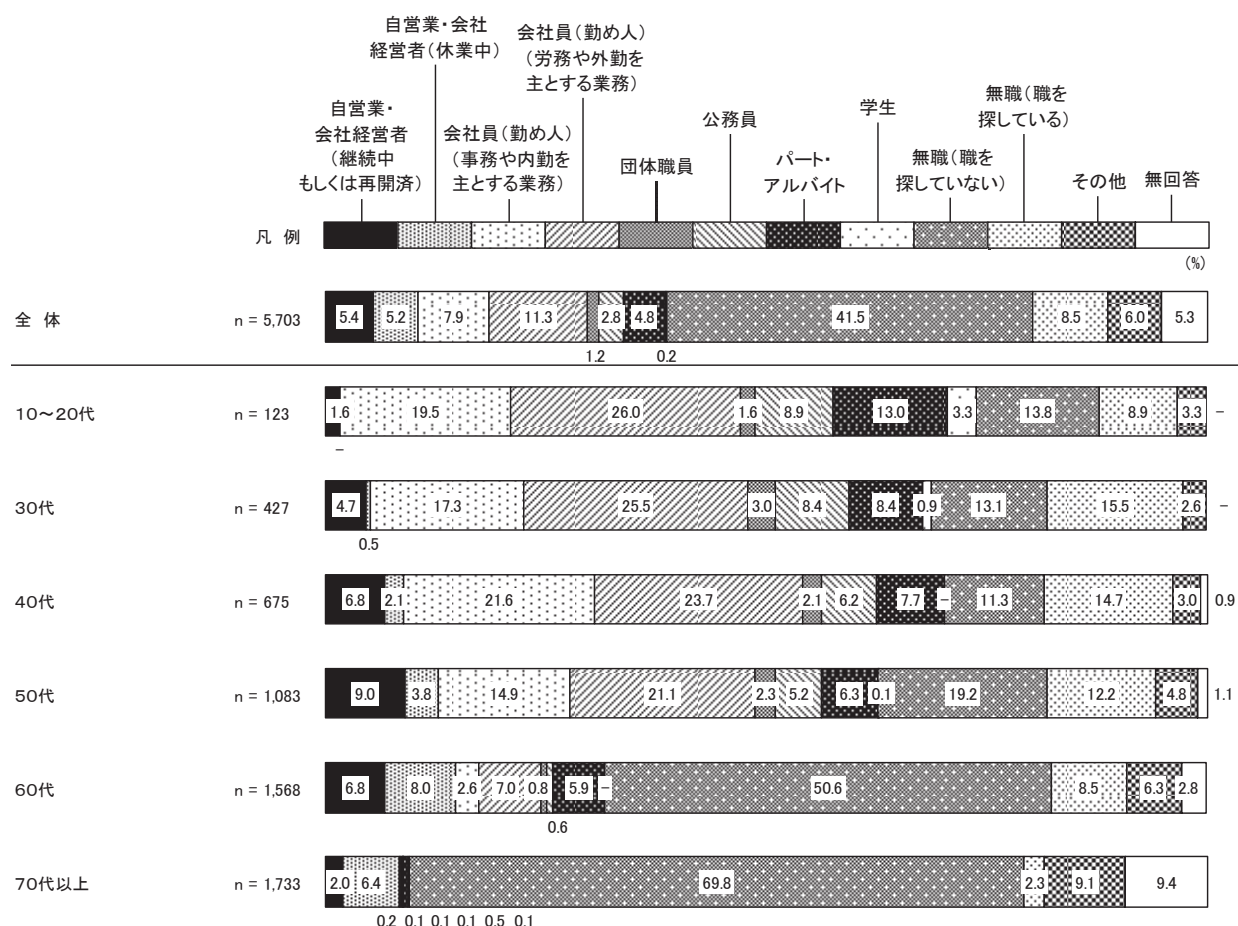
問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業(就業形態)については、無職以外では「会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)」が11.3%と最も高く、次いで「会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務)」が7.9%となっている。

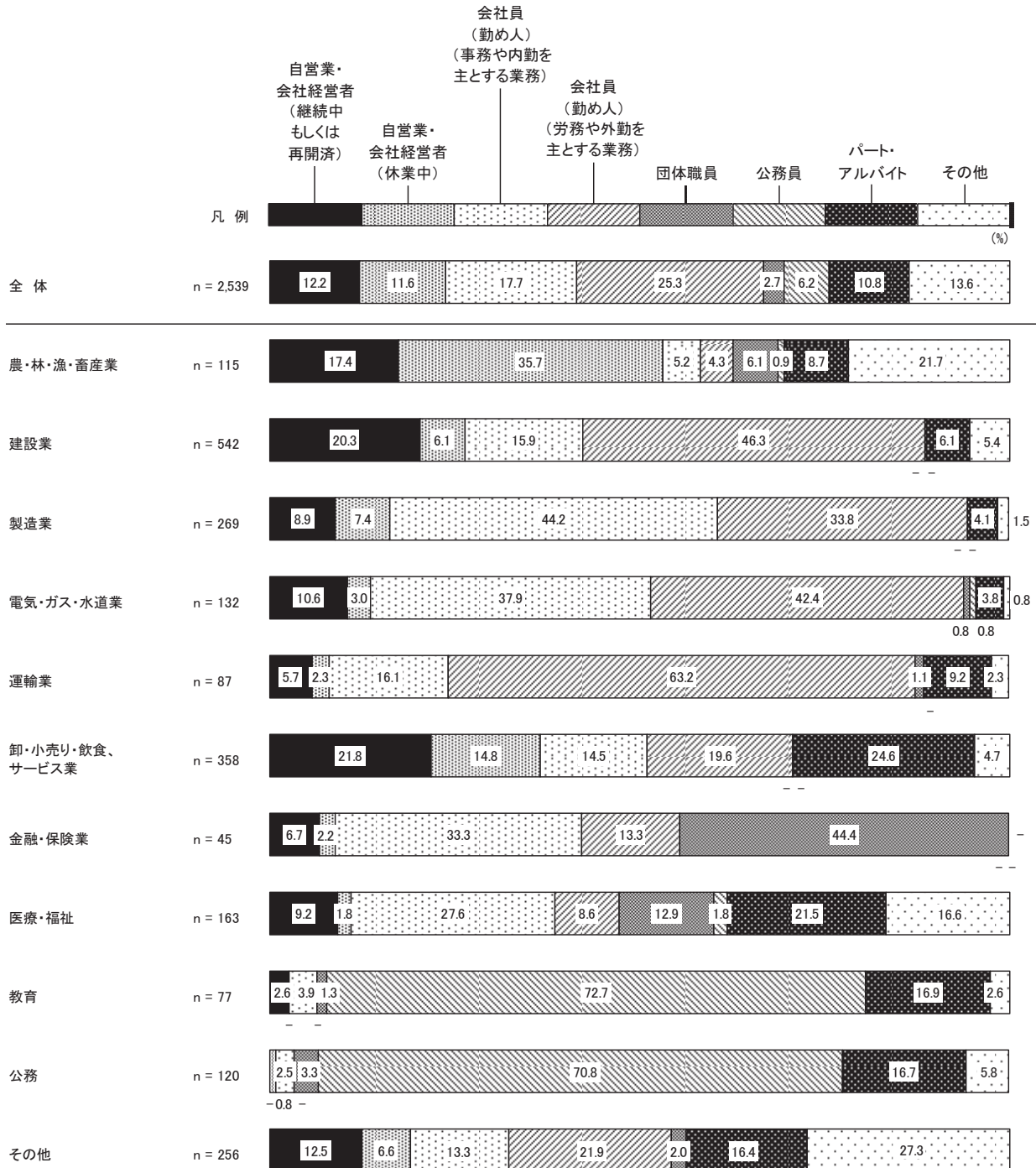
回答者の年齢別にみると、それぞれ最も高い割合を占めている職業は、10~20代で「会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)」が26.0%、30代で「会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)」が25.5%、40代で「会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)」が23.7%、50代で「会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務)」が21.1%、60代で「無職(職を探していない)」が50.6%、70代で「無職(職を探していない)」が69.8%となっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



世帯主が就業しているとした世帯について業種別にみると、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（46.3%）、運輸業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（63.2%）、製造業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（44.2%）が他の業種と比べ高くなっている。

<図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）>



(2) 現在の業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

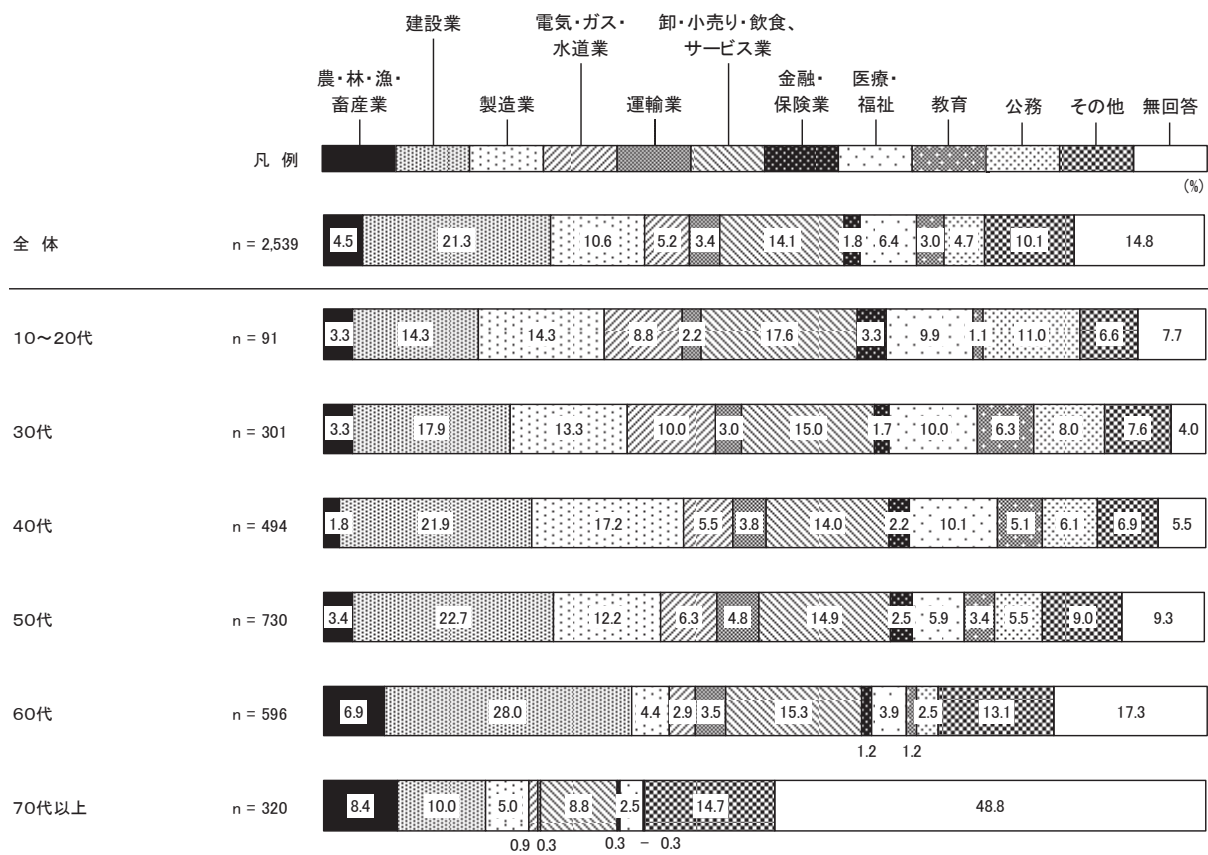
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

世帯主が就業しているとした世帯の業種については、「建設業」が21.3%と最も高く、次いで「卸・小売り・飲食、サービス業」が14.1%、「製造業」が10.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、60代が28.0%、「製造業」は、40代が17.2%と高くなっている。

<図表3-1-3-3 業種(年齢別)>



### 3-1-4 震災発生当時の住宅の状況

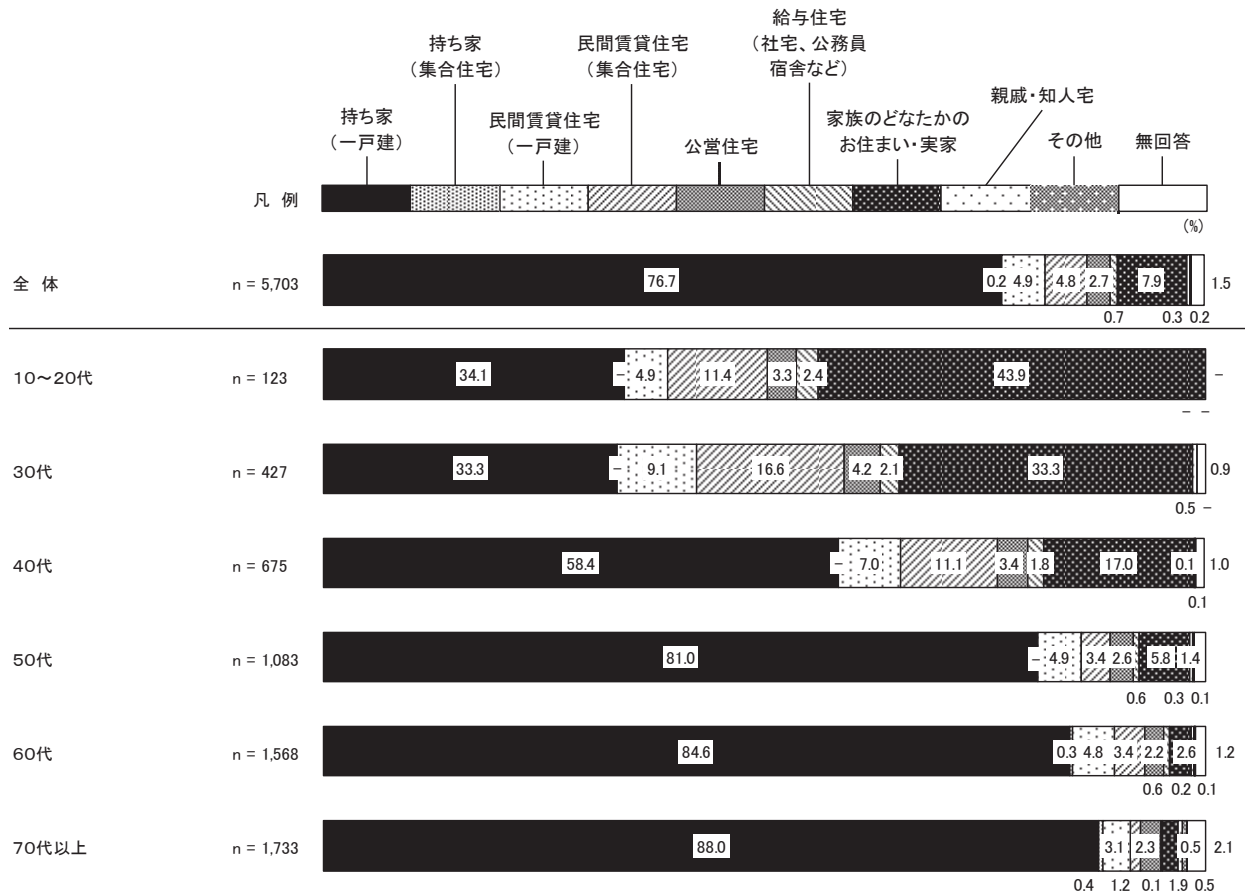
#### (1) 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家(一戸建)」が76.7%と最も高く、「持ち家(集合住宅)」(0.2%)を合わせたく持ち家>は76.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家(一戸建)」は概ね年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では88.0%と9割近くを占める。一方、「民間賃貸住宅(集合住宅)」、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、「民間賃貸住宅(集合住宅)」は10~20代で11.4%、30代で16.6%、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~20代で43.9%、30代で33.3%となっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態(年齢別)>



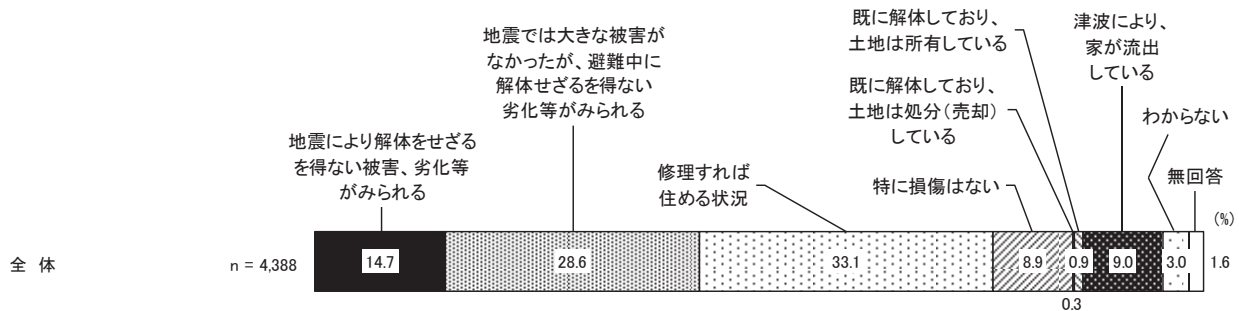
(2) 震災発生当時の住宅の状況

【問4で「1. 持ち家(一戸建)」「2. 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問4-1 震災発生当時にお住まいだった住宅は、現在どのような状況ですか。(〇は1つ)

震災発生当時の住宅の状況については、「修理すれば住める状況」が33.1%と最も高く、次いで「地震では大きな被害がなかったが、避難中に解体せざるを得ない劣化等がみられる」が28.6%となっている。

<図表3-1-4-2 震災発生当時の住宅の状況>



(3) 震災発生当時の住宅の今後の所有

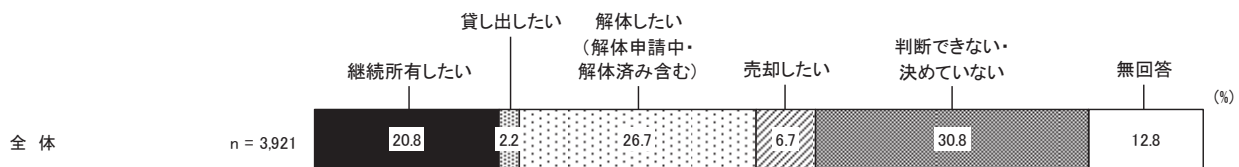
【問4-1で「1」から「6」、「8」と回答した方にうかがいます。】

問4-2 震災発生当時にお住まいだった住宅について、今後の所有をどのようにお考えですか。  
(「1. 建物」「2. 宅地」それぞれについて、表内の該当するところに〇)

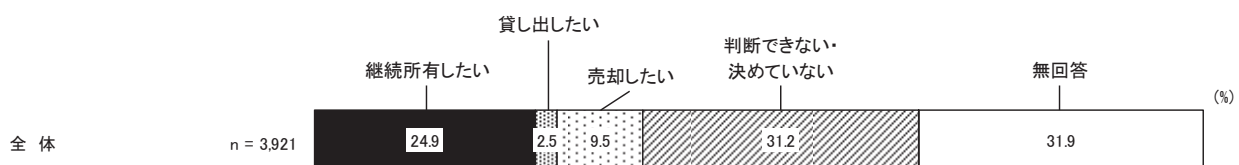
震災発生当時の住宅(建物)の今後の所有については、「判断できない・決めていない」が30.8%と最も高く、次いで「解体したい」が26.7%となっている。

震災発生当時の住宅(宅地)の今後の所有については、「判断できない・決めていない」が31.2%と最も高く、次いで「継続所有したい」が24.9%となっている。

<図表3-1-4-3 震災発生当時の住宅の今後の所有(建物)>



<図表3-1-4-4 震災発生当時の住宅の今後の所有(宅地)>



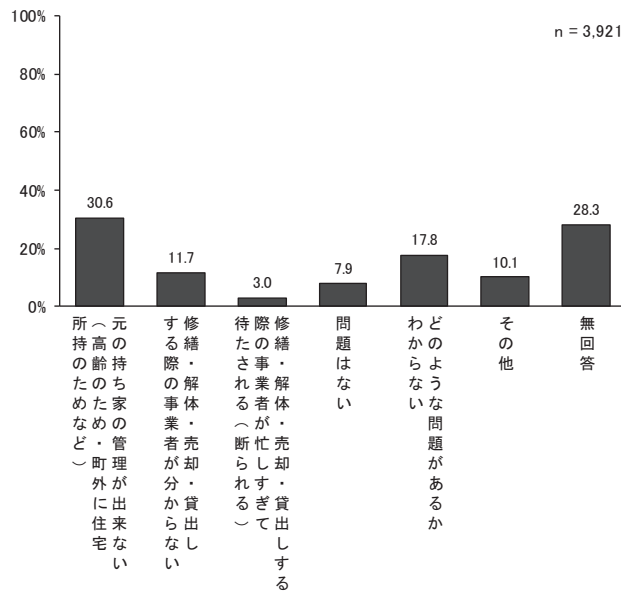
(4) 震災発生当時の持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却するにあたっての問題

【問4-1で「1」から「6」、「8」と回答した方にうかがいます。】

問4-3 持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却をするにあたっての問題はどのようなものがありますか。(〇はいくつでも)

震災発生当時の持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却するにあたっての問題については、「元の持ち家の管理が出来ない」が30.6%と最も高く、次いで「修繕・解体・売却・貸出しする際の事業者が分からない」が11.7%となっている。また、「どのような問題があるかわからない」は17.8%となっている。

<図表3-1-4-5 震災発生当時の持ち家・土地の維持管理・修繕・解体・売却するにあたっての問題>





### 3-1-5 現在の住居形態

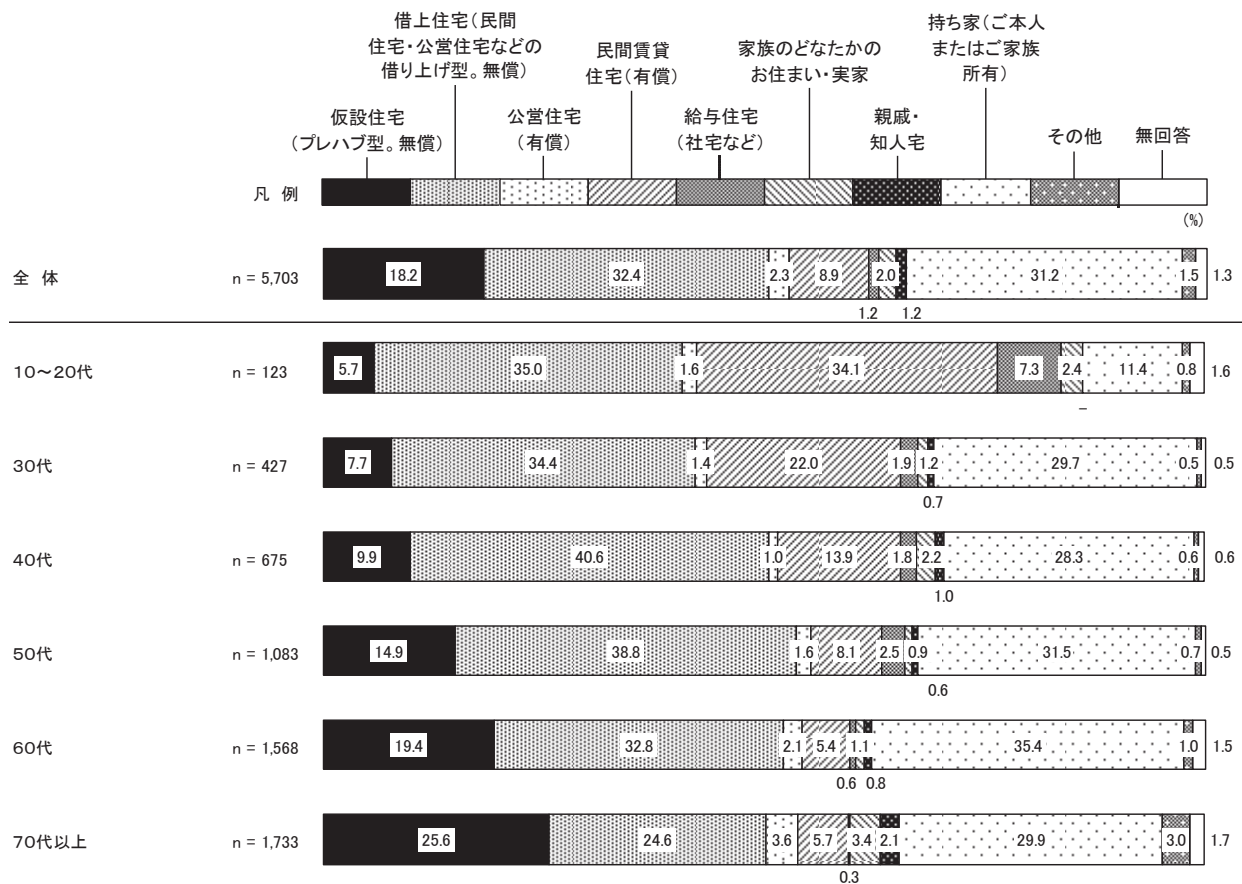
#### (1) 現在の住居形態

問7 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が32.4%と最も高く、次いで「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が31.2%、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」が18.2%となっている。

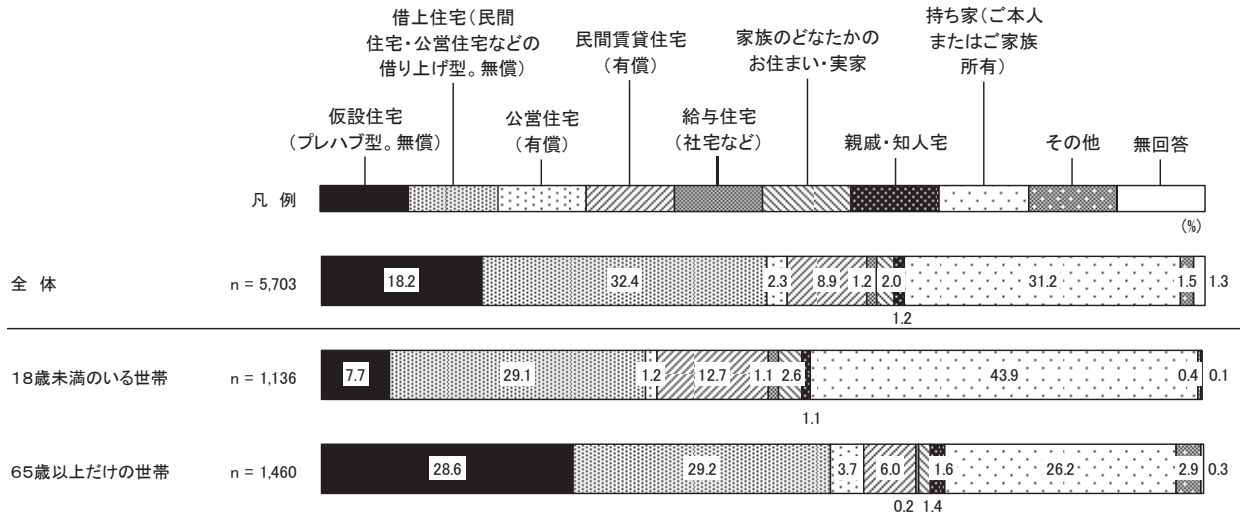
回答者の年齢別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、70代以上では25.6%となっている。一方、「民間賃貸住宅（有償）」は若年層で高く、10～20代が34.1%、30代が22.0%となっている。

<図表3-1-5-1 現在の住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、65歳以上だけの世帯が28.6%と高くなっている。「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、18歳未満のいる世帯が43.9%と高くなっている。

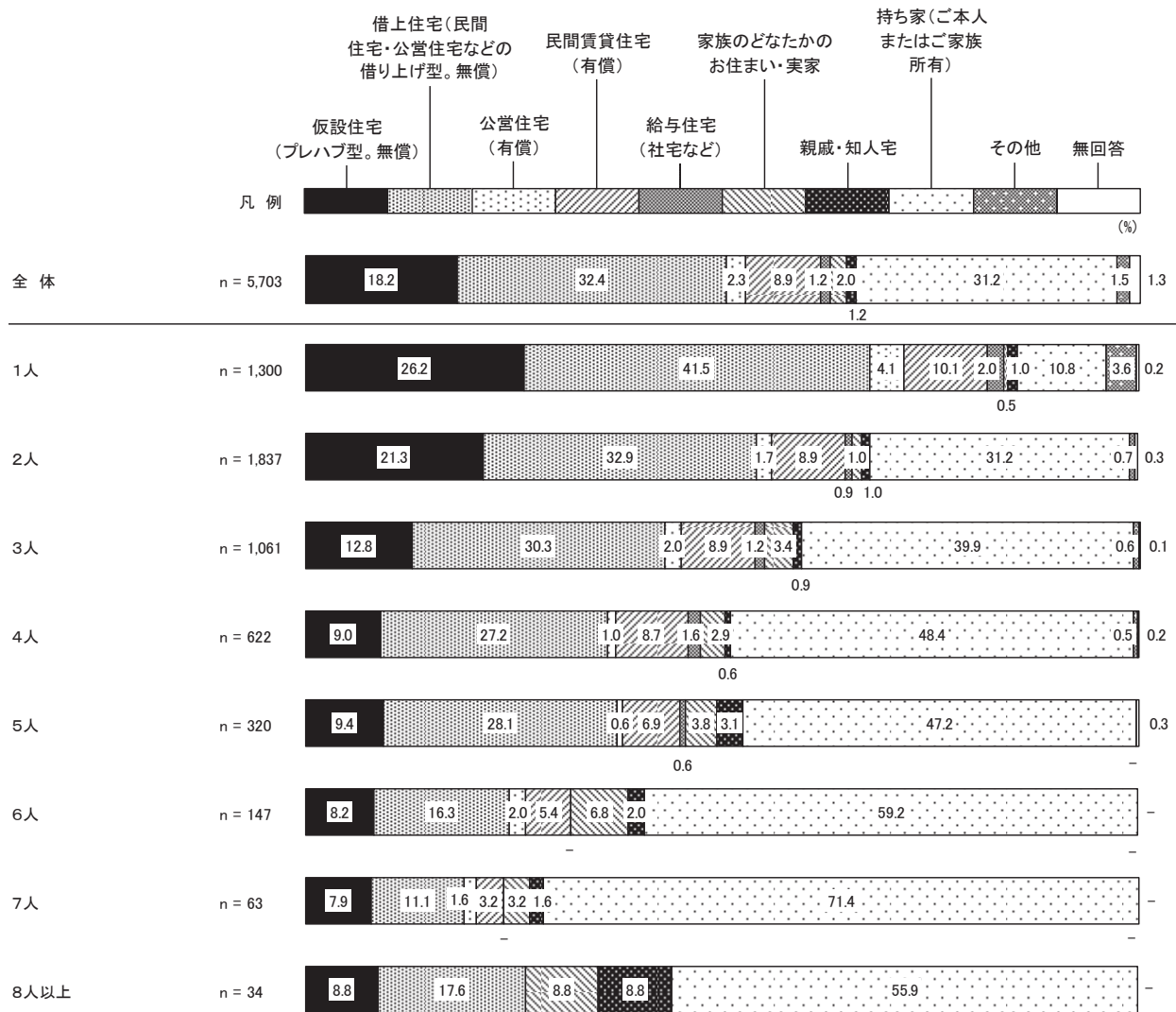
<図表3-1-5-2 現在の住居形態（世帯構成別）>





世帯人数別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、世帯人数が多くなるにつれ割合が低くなり、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は世帯人数が多くなるほど割合が高くなる傾向にある。

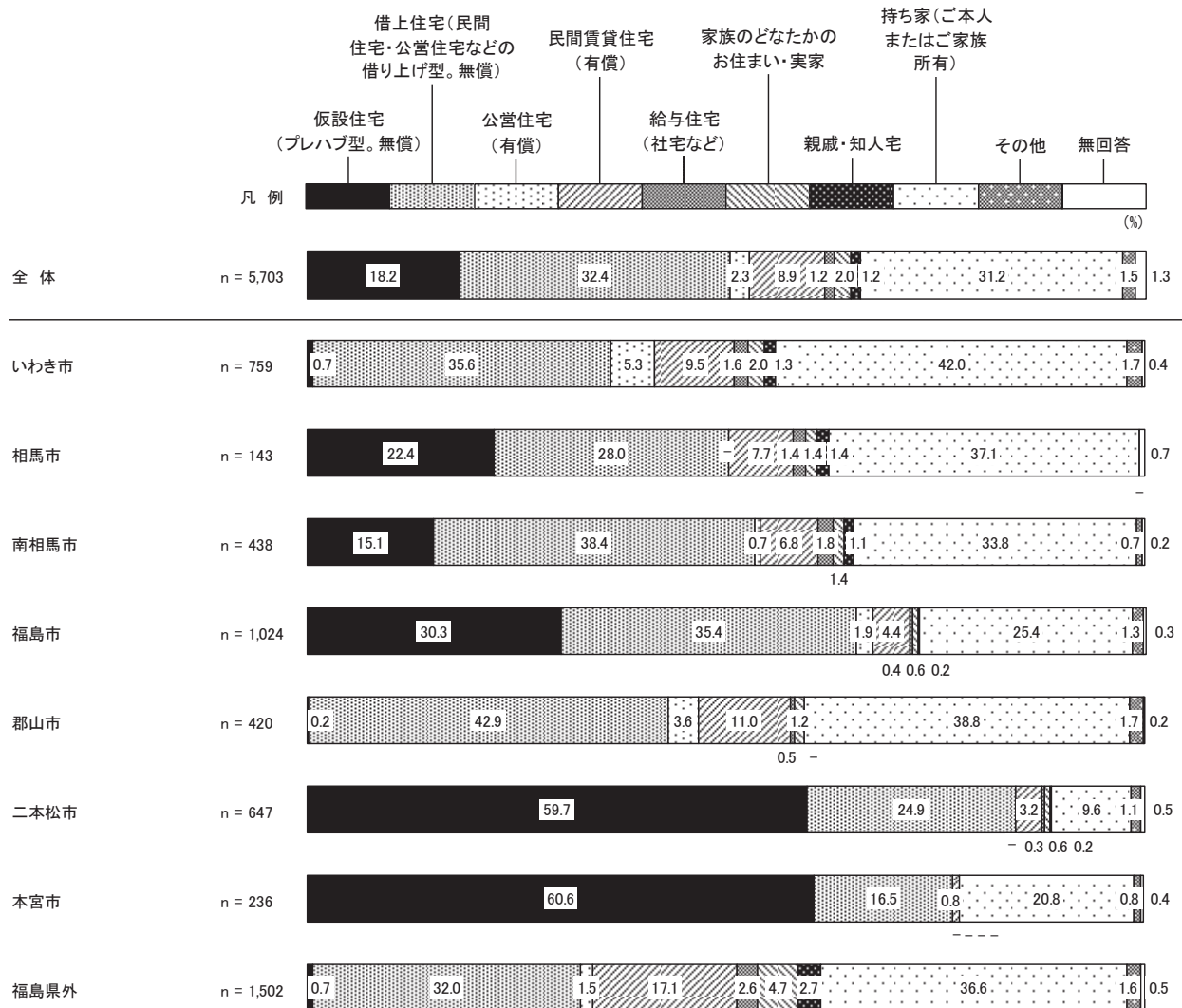
<図表3-1-5-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



### III 調査結果

主な避難先自治体別にみると、「仮設住宅（プレハブ型。無償）」は本宮市（60.6%）、二本松市（59.7%）、  
「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は郡山市（42.9%）、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」はいわき市（42.0%）で高くなっている。

＜図表3-1-5-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）＞



(2) 現在の持ち家の取得形態や資金などの状況

【問7で「8.持ち家（ご本人またはご家族所有）」と回答した方にうかがいます。】

問7-1 現在お住まいになっている持ち家について、取得形態や資金などの状況をお答えください。

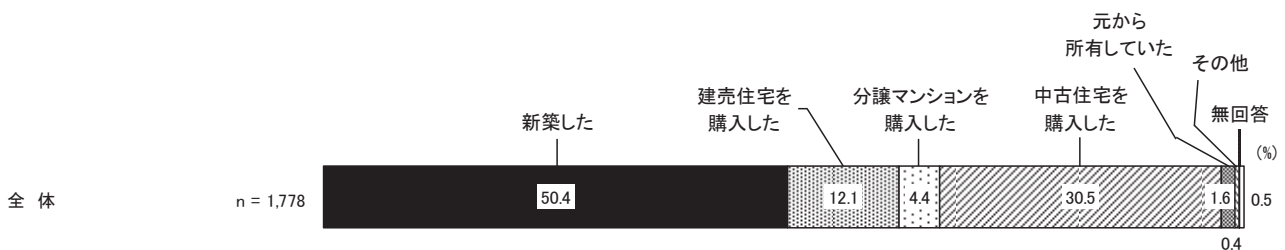
(それぞれ〇は1つ)

現在の持ち家の取得形態については、「新築した」が50.4%と最も高く、次いで「中古住宅を購入した」が30.5%、「建売住宅を購入した」が12.1%となっている。

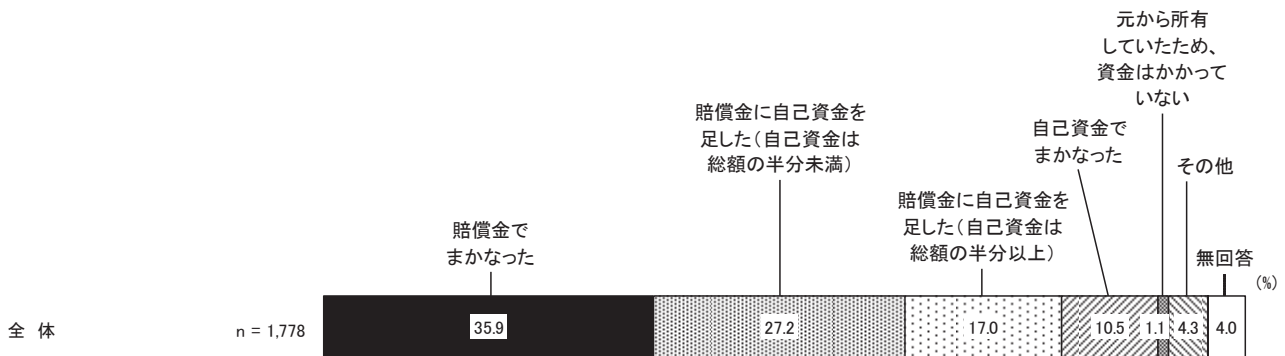
取得時の資金については、「賠償金でまかなった」が35.9%と最も高く、次いで「賠償金に自己資金を足した（自己資金は総額の半分未満）」が27.2%、「賠償金に自己資金を足した（自己資金は総額の半分以上）」が17.0%となっている。

取得前の居住形態については、「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が58.7%と最も高く、次いで「仮設住宅（プレハブ型。無償）」が13.7%、「民間賃貸住宅（有償）」が11.6%となっている。

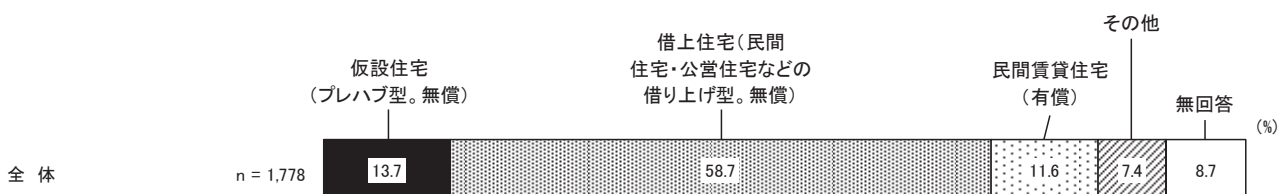
<図表3-1-5-5 現在の持ち家の取得形態>



<図表3-1-5-6 取得時の資金>



<図表3-1-5-7 現在の持ち家の取得前の居住形態>

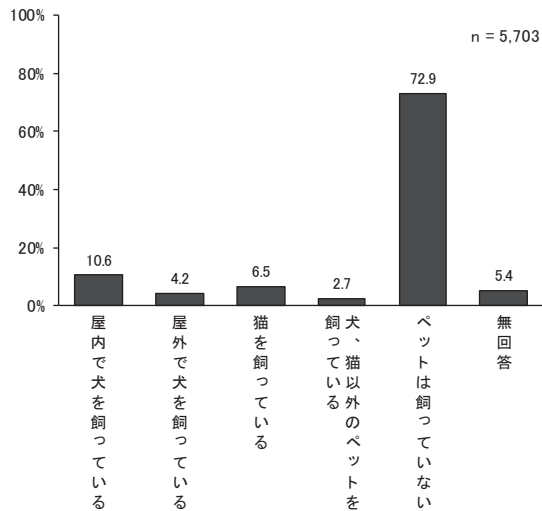


3-1-6 現在のペットの飼育状況

問8 現在、ペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

現在のペットの飼育状況については、ペットは飼っていない世帯が72.9%と最も高く、次いで、犬を飼っている世帯(「屋内で犬を飼っている」、「屋外で犬を飼っている」)が14.8%、猫を飼っている世帯が6.5%となっている。

<図表3-1-6-1 現在のペットの飼育状況>



<図表3-1-6-2 現在のペットの飼育状況(復興公営住宅への入居意向別)>

